

韓国の国会と第 17 代総選挙結果分析について

(財) 自治体国際化協会 CLAIR REPORT NUMBER 260 (Jun10, 2005)

財団法人自治体国際化協会
(ソウル事務所)

目次

はじめに

概要	i
第1章 韓国の政治概況	1
第1節 韓国の国会	1
1 国会	1
2 国会の変遷過程	1
3 国会の構成	4
4 国会の活動	4
5 国会の権限	6
第2節 国会議員	7
1 議員の地位・資格	7
2 議員の特権・権利・義務	7
第3節 政党	9
1 発達過程	9
2 政党の変遷	10
3 主な政党	12
第4節 国会の大統領弾劾	13
1 憲法にみる国会の大統領弾劾	13
2 弾劾の手順と要件	14
3 国会の大統領弾劾案可決	15
4 弾劾案可決の可否両論	16
5 弾劾案可決後の世論調査	17
6 歴代大統領・首相の任期中断事例	17
7 大統領弾劾棄却	18
第2章 政治関連法の改正	20
第1節 改正政治関連法の主な内容	20
1 概要	20
2 公職選挙及び選挙不正防止法	20
3 政党法	24
4 政治資金に関する法律	24
第2節 選挙運動方式の変化	25

第3章 第17代総選挙過程と選挙結果の分析	27
第1節 総選挙の展開過程と特徴	27
第2節 総選挙の結果概観と分析	29
1 与野小と単占政府の構成	29
2 政治的世代交代と民主化2期の出発	33
3 投票率の増加	35
4 新しい分裂構造の登場と政党政治の変化	36
おわりに	39
資料編	40
参考文献	41

はじめに

韓国では2004年4月15日に投開票が行われた第17代国会議員選挙の立候補届け出が、3月31日午前9時（日本時間同）から始まった。立候補の届け出は4月1日まで行われ、地方区（243）には全国で1,175人が、比例区（56）には14政党、190人が立候補した。

盧武鉉（ノ・ムヒョン）大統領への弾劾訴追が国会で可決され、高建（コ・ゴン）首相が大統領職務代行を務める憲政史上初めての異例の事態が起こり、総選挙では弾劾の是非のほか、国会での弾劾訴追案可決に批判的な世論の風に乗れ、選挙前は47議席しかなかった少数与党のユルリン・ウリ党（以下「ウリ党」という。）がどこまで議席を伸ばせるかが最大の焦点となった。また、政界の世代交代や韓国の病根と言われる地域主義の行方、女性の政界進出、進歩政党の院内進出なども焦点となった。

選挙法の改正で、合同演説会や政党演説会は廃止され、韓国で過去に繰り返されてきた大規模集会は姿を消した。選挙違反の申告者には最高5,000万ウォン（約500万円）の報奨金が与えられ、買収や供応を受けた者は、買収、供応額の50倍の罰金を科せられるなど、取り締まりが強化された。

また、初めて1人2票制が導入され、小選挙区制の地方区（243）と政党へ投票を行う比例区（56）への投票がそれぞれ行われた。

総選挙の投票は4月15日午前6時、全国約13,000カ所の投票所で一斉に始まった。開票終了後の中央選挙管理委員会の発表によると与党ウリ党が全299議席の過半数を越す152議席を獲得して圧勝。野党ハンナラ党は121議席と改選前より16議席減らして敗北した。韓国の総選挙で与党が過半数を獲得したのは1985年以来、初めてのことである。

今回、比例区に立候補して10選に挑戦した自民連総裁の金鍾泌元首相は落選に終わった。金大中前大統領、金泳三元大統領も引退しており、「三金時代」は完全に幕が下ろされた。

当選者のうち190人近くが新人で大幅に世代交代が進み、女性も39人が当選した。民主党は改選前の61議席から9議席へ、自民連は10議席から4議席へと惨敗し、存続が問われるまでになった。民主労働党は地方区と比例区で合計10議席を獲得し、初めての議席獲得ながら、第三党に躍り出た。

これまで少数与党ゆえに苦しんできた盧武鉉大統領であるが、今回の総選挙のウリ党圧勝によって安定した政局運営が可能となった。

このレポートは、全体を3章に分け、第1章では今まで詳しく日本に紹介されていなかった国会と政党などについて述べ、第2章では今回大幅に改正された選挙制度を、第3章では選挙結果分析について紹介する。本書が広く日本の自治体の方々に紹介され、韓国の政治についての理解の一助となれば幸いである。

概要

1 今回の国会議員選挙の意義及び選挙戦の状況

国会議員の任期満了に伴う第17代総選挙が4月15日に実施された。

今回の選挙は、選挙法改正により26議席増えた定数299議席を争うこととなり、また、初めて小選挙区（定数243）と比例区（同56）の二票制が導入された。

243の小選挙区でウリ党243人、ハンナラ党218人、新千年民主党182人、自由民主連合123人、民主労働党123人、諸派62人、無所属224人の1,175人が届け出をし、女性候補は66人で前回の2倍であった。

今回の選挙は、盧武鉉政権一年の審判と弾劾の是非が主なテーマとなり、国会、特に大統領弾劾に賛成した野党への国民の反発もあり、少数与党であったウリ党がどこまで議席を伸ばすかが注目されていた。

選挙戦序盤はウリ党が圧倒的に有利であったが、終盤に野党ハンナラ党が追い上げをみせ、選挙当日まで激しい駆け引きが繰り広げられた。

2 選挙結果

政党ごとの獲得議席は、ウリ党が地域区129議席、比例代表23議席を獲得し、計152議席で単独で院内過半数議席を確保し、88年以来16年ぶりに与党が第一党となる「与大」国会が誕生した。

ハンナラ党は地域区100議席、比例代表21議席の計121議席を獲得したが、第二党に甘んじ事実上の敗北となった。ウリ党圧勝により、これまで少数与党であるがために苦しんだ盧武鉉大統領は、安定した政局運営が可能となった。

また、新千年民主党（以下「民主党」という。）は9議席、自民連は4議席と惨敗し、両党は存続が問われることになったが、民主労働党は地方区と比例区で計10議席を獲得し、第3党に躍り出た。

最終投票率は60.6%で、前回の第16代総選挙の57.2%より3.4%高くなったが、2002年大統領選の70.8%よりは10.2%低い結果となった。

当選者のうち190人近くが新人で大幅に世代交代が進み、女性も39人が当選した。

各政党の議席を地域別に見ると、ハンナラ党が大邱（テグ）、慶尚（キョンサン）北道と釜山（プサン）、蔚山（ウルサン）、慶尚南道など68地域区で60議席を獲得し、ウリ党は全羅（チョンラ）道と忠清（チュンチョン）地域の55地域区で44議席（80%）を確保した。

この結果、韓半島の西側は民主党に代わってウリ党が全羅・忠清地域を手中に収め、ハンナラ党は伝統的な支持基盤である韓半島の東側、慶尚地域で圧勝する現象が今回も繰り返された。

「三金」時代（金大中（キム・デジュン）前大統領、金泳三（キム・ヨンサム）元大統領、金鍾泌（キム・ジョンピル）氏）と比較すると、露骨な地域摩擦や地域内の結集現象は和らいだが、韓国政治の東西構図は今回も色濃く残ることとなった。